

■誌上発表 13

1 研究主題 色・形態のもつ象徴的概念を自画像にもりこむ

2 提案者 江戸川区立小岩第五中学校 教諭 鳥居 カヨ子

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

形体や色のもつ一般的な象徴的意味を知ることによって、これらの絵画的な言語を駆使し、表したい内容に自分なりの意味を込めることが可能になる。

ここでは、自画像を描く作業の中で自己を見つめる際の「刺激語」として作用させることをねらった。自分を表すには何色がふさわしいのか、意味を強めるための形態や背景はどういうものにしたらよいかと悩みながら、最終的に「自分とは何か」と考えるというところまで迫りたい。子供の発達段階と進路指導とも絡めて、実施時期としては2年の後半から3年の1学期ごろに行い、「心を育てる美術科」として子供の成長に関わっているよう配慮した。

自画像を描く時鏡を見て描きとるというのにはかなりな抵抗がある。鏡を見ている姿を他人から見られたくない。また、横向きや半身、全身を描くには大きな鏡や二枚合わせを用いなければならない。そこで、昨今学校に整備されてきたデジタルカメラとコンピュータの画像処理を使って自画像の下絵まで完了することを試みた。自分の写真を納得いくポーズや構図で何回も撮り直しが可能なのがデジカメの利点である。その後さまざまな画像処理を施す。色の階調を変えたり、コントラストを引いてみたりコンピュータ処理した表現を自由に制作させる。絵画に苦手意識を持つ生徒も喜々として構想力を駆使する。何といっても自分の姿だから大切にしたいという思いでパソコン室が盛り上がるのが楽しい。構想さえ固まればこの勢いで画用紙に引っ張っていくことが可能である。画材は紙にのる物の中で画材のもつ効果を考えて自由に選ばせる。

作品制作後は絵画で表現しきれなかったところを言語で補完するという趣旨で「表したかった自分」という題で文を書かせると作品と生徒の思いへの理解が深まり、評価にも繋げられる。中にはきちんと自分と向き合い作品に表現できる生徒もいる。そして「作品は思いどおりにいかなかったが、自分についてじっくり考えることができた。」と言う子にとっても、この自画像は大切な作品になりえていて、このことが美術科として子供の心を育てていると言えるのではないだろうか。

4 学習の目標

- (1) 造形表現の言語としての色や形態のもつ象徴的な意味について知り、表したい自分にふさわしい主調色やモチーフ、背景（風景）を構想をする。
- (2) デジタルカメラと描画ソフトの使い方を知り、色調、タッチなどの効果をコンピュータで試行錯誤し自画像の下絵にする。
- (3) 下絵をもとに適切な画材を選び作品を完成させる。
- (4) 「作品解題」（解説）を書き、表現の意図と自己についてどこまで考えたか、表したい自分にどれだけ迫れたか、を検証する。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 客観的に判定できる作品に込められたエネルギーの量＝作品の密度。
 - ② 「作品解題」に書きだされた表現への意欲。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 作品の色づかい、モチーフの扱い、構成により表したい自分を表現できているか。
 - ② 「作品解題」に示された表現の意図が効果的に使われているか。
- (3) 創造的な技能
 - ① 学習した色、形態のもつ意味を理解して作品に応用することができたか。
 - ② 描画ソフトを思いどおりに使えたか。
 - ③ 主題に応じた適切な画材を選び、表現することができたか。

6 学習計画（全10時間）

(1) 用具・準備

- ① 材料 画用紙
- ② 道具 水彩絵の具 ポスターカラー パステル 色鉛筆 デジタルカメラ5～6台
- ③ その他 パソコン（一人1台） 簡単な描画ソフト（又はフォレストタッチ） プリンタ 掲示板 プロジェクタ スクリーン 参考作品（自画像、構想画）

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	自画像作品の鑑賞。 色のもつ象徴的な意味について概略を知る。 形態のもつ象徴的な意味について考える。	感想をたくさん言わせる。 生徒の知らなそうなものも解説を入れると良い。 例：ゴッホと黄色など。 意味をもたせることができそうなものを生徒と一緒に考えさせながら挙げる。
二	8	自分のどのような面について表そうとするか考える。 主調色はどれがふさわしいか、主題を強めるための背景やモチーフを書き出し、自分のポーズ、表情、画面構成について考える。 デジタルカメラで撮影する。 画像をパソコンに取り込んで加工する方法を学習し、効果を確認しながらさまざまに試み、下絵としてプリントする。 画用紙に主題に合わせた画材で描き進める。	言葉で書き出す。(単語) 言葉で書き出す。(単語) アイディアスケッチに入る。アイディアスケッチの枠線は四つくらい用意し、消さずに次の枠内に描かせて思考の経過を残すようにすると良い。(関心・意欲・態度) アイディアはこの段階でも変更可とする。いろいろ試すうちにより良いものになる。 下絵を見ながら描画材料を検討する。
まとめ	1	解題を書く。	自分の表現したいことについてその意図やうまくいったこと、いかなかったことも含めて解説する文を書く。400字程度書かせると伝わってくるので、1時間は確保したい。作品を見るとき資料になる。 (関心・意欲・態度)(発想や構想の能力)



資料1 色からの連想

(出典 日本色研「色彩 カラーコーディネーター入門」)

白	潔白、清楚、清潔、衛生	黄緑	希望、平和、青春、明快	藍色	深遠、沈静、希望
黒	暗黒、悲哀、厳肅、死	緑	平和、希望、安全、新鮮	青紫	高貴、気品
赤	情熱、強烈、革命、危険	青緑	沈静、深遠、厳肅	紫	高貴、優雅
ピンク	温情、幸福、愛、女性的	水色	冷静、爽快、清涼、清浄	うす紫	明快、温情、女性的
橙	温情、陽気、快活、嫉妬	暗青緑	神秘、理想、深遠	紫	高貴、優雅
黄	平和、光明、明快、活発	青	希望、悠久、清澄	赤紫	熱烈、優美

資料2 シンボリックなモチーフ

- ・身体の一部 目、手、口、耳、牙
- ・気象 晴れ、雨、雷、風、虹
- ・風景(地形) 森、林、海、山、空、滝、都会、田舎、道、橋
- ・火、水、光、闇
- ・人工物 時計、砂時計、鎖、船
- ・動物 海の生物、昆虫
- ・植物 花、実、穀物、樹木

まだまだ沢山ありそうです